

日本創生委員会 <第40回 会議骨子>

文責 日本創生委員会 事務局
(JAPIC)

議事次第

2014年6月17日(火) 11:30~13:30

於：東京會館 12F ロイヤルルーム

● 新任委員挨拶

神戸大学	理事・副学長	内田 一徳 氏
資源エネルギー庁	長官	上田 隆之 氏

● ディスカッション『我が国の未来「2020年」～「2050年」を展望し、 「今、何をすべきか」、「プロジェクト事例」を考える』

[パネリスト]

日本創生国土計画委員会	委員長	石田 東生 氏
国土技術研究センター 国土政策研究所	所長	大石 久和 氏
日本プロジェクト産業協議会	常務理事	門脇 直哉 氏
国土交通省 国土政策局 大臣官房審議官		藤井 健 氏
「選択する未来」委員会	委員	増田 寛也 氏

● 寺島委員長総括

● 三村会長挨拶

● 高藪専務理事挨拶

以上

<パネリストスピーチ及びディスカッション>

(コーディネーター)

- 前回の日本創生委員会に続き、「2020年」「2050年」を展望して、今我が国がなすべきこと、そしてプロジェクト事例について議論してまいります。

(「選択する未来」委員会 委員 増田寛也氏)

- 「未来への選択」として、希望を実現できる環境をつくり、50年後に1億人程度の安定した人口構造を保持する。とあるが、地理空間的にも、年齢構成的にもバランスのとれた社会を目指すチャレンジが必要だ。
- 骨太の方針素案、産業競争力会議の日本再興戦略(改訂)素案において、人口急減問題が柱として取り上げられた。少子化と人口減少克服のための司令塔を政府が設置する動きは評価できる。
- 人口の社会移動が注目点。若者の東京集中と東京の超低出生率という二つの構造を克服すべき。
- 373自治体が消滅可能性都市というデータがある。出生率上昇と移動をどうするかが検討課題である。今後国をあげての人口減少問題対策に期待したい。

(国土交通省 国土政策局 大臣官房審議官 藤井健氏)

- 地方の雇用の65%がサービス業である現状を踏まえると、人口減少によってサービス業が地方から消滅することは、同時に地方の雇用が失われることを意味する。
- 解決するキーワードは「コンパクト・プラス・ネットワーク」。地方都市の強みの再認識や自分磨きが必要である。

<パネリストスピーチ及びディスカッション>

(国土技術研究センター 国土政策研究所 所長 大石久和氏)

- JAPICとしても新たな国土計画の提案が必要と考え、委員会を立上げた。その問題意識としては、やはり人口の問題が絡んでおり、東京への人口集中により、大自然災害発生の危険性が高まっている。東京の肥大化を容認しているのは、地震、津波、高潮などに対する危機感の欠如といえる。
- 日本人は交通ネットワークを含めたインフラストラクチャーという概念を欠いている。大局観をもって、必要なものはやるという思いで石田先生の委員会である日本創生国土計画委員会を進めている。

(JAPIC日本創生国土計画委員長 石田東生氏)

- 日本創生国土計画のキーワードは「好循環」すなわち「環(わっか)」である。グローバル時代だからこそ、日本の津々浦々の特性や価値を大事にしないといけない。東京の一極集中を排除だけでなく、個性ある地域の再構築が大事。

(JAPIC常務理事 門脇直哉氏)

- 前回の日本創生委員会で日本の未来選択という議題での議論をし、付帯的なプロジェクトが必要ではないかという意見を賜り、JAPIC事務局として国家が取り組むべきプロジェクトを50に整理したもの。皆さまからご提案・ご意見をお待ちしております。

(コーディネーター)

- 人口減少問題、新たな国土のグランドデザインについて議論したい。

<ディスカッション>

(ゴールド・マンサックス証券 吉村隆氏)

- 弊社東京オフィスの託児所は、社員の利用度が高い。入社を決めるインセンティブになっている。日本の未来選択を考える中で少子化対策において、インセンティブをいかにシステムに組み込むかが重要だ。

(「選択する未来」委員会 委員 増田寛也氏)

- 2040年時点で、794の自治体で高齢者すらも減少すると試算している。例えば、東京で溢れかえる人口を地方に逆流させる事で合理的な医療福祉施策が可能となる。

(セブン銀行 代表取締役会長 安齋隆氏)

- 非常事態を認識できない国家はダメになっていく。増田先生や三村さんにはぜひ政府に対して「いまの危機」をアピールしてもらいたい。

(日本港湾協会 名誉会長 栢原英郎氏)

- 国土計画は国が大胆な決断をしないと力を失ってしまう。

(国土交通省 国土政策局 大臣官房審議官 藤井健氏)

- 国土づくりを考える上でインフラを抜きに考えることはできないが、インフラの議論そのものがけしからんという風潮があり、国土計画論はお休みモードになってしまっていた。ところが3.11を皆が経験し流れが変わってきた。

<ディスカッション>

(三菱商事 取締役会長 小島順彦氏)

- 人口問題はまっさきに解決していく必要がある。例えばTPPは若い世代が農業を前向きに担う気持ちになれば、若者層の地方移動のきっかけになるかもしれない。教育問題としては、社会人が教育の世界に積極的に入ることにより「どうしたら自分たちが日本のために貢献できるか」を伝える事ができるのではないか。

(内閣府事務次官 松山健士氏)

- 外国人労働者については、移民政策ではなく、活躍してもらう場を考える事が必要。

(森ビル 特別顧問 山本氏)

- 増田先生にお聞きしたいが、安定状態の理想形をした地方がどこかにあるのか。

(「選択する未来」委員会 委員 増田寛也氏)

- 沖縄は第三子の出生率が圧倒的に高くまた子育てを地域で支える事も根付いている。
- 地域の大学、ブロック毎の拠点大学などが頑張ってもらう事で、人口の東京一極集中是正に寄与するのではないか。

(コーディネーター)

- JAPICのプロジェクトの中に理想的な地方のまちをつくるというプロジェクトもあり得るのではないか。

<ディスカッション>

(「選択する未来」委員会 委員 増田寛也氏)

- 東京での介護人材の不足をインドやシンガポールの外国人労働者の受入をすべき現況がある。そんな中で先程述べた人口の逆流という観点からは、地方に健康福祉タウンを作り、東京から地方に戻りたくないという女性を地方に誘導できる可能性がある。

(JAPIC常務理事 門脇直哉氏)

- 人口問題については、民間から発信して世の中を変えていく活動をJAPICは継続したい。また、「地域経営」という観点で新たな委員会を立ち上げるので皆さんに参加いただきたい。

(プロデューサー 残間里江子氏)

- 若い世代の意見も重要だ、『だから日本はズレている』という若い女性によく読まれている新書をお勧めする。20代の社会学者が若者の考え方を記述したもの。

<寺島委員長総括>

- 香港の一人当たりGDPが日本に急迫し、日本を抜きアジア3位になるのではないかとされている。(昨年約3.8万\$)
- ダイナミックな産業構造の転換が必要。農業やサービス業において年収で200万以下ではなく500から700万を実現するモデルを作る必要がある。
- JAPICのプロジェクト50は、プライオリティーや総合エンジニアリング力をかけてどう立体化させるかが重要。
- 国を活性化させる上でシンガポールとデンマークが示唆的である。目に見えない付加価値を凝縮して、国を豊かにする挑戦をしているのがシンガポールモデル。農業とITCというキーワードで国を豊かにする方法論が参考になる。

<三村会長挨拶>

- 創生委員会は平成20年に会長の諮問機関として作ってから、本日が40回目にあたる。
- 大臣や閣僚の方々に約20名来ていただいた。
- 日本に足りない何らかのものをこの会が提供できたのではないかと思う。
- 寺島委員長、創生委員、そして傍聴の方々につくづく感謝している。

<高藪専務理事挨拶>

- 7年前の年末に日本創生委員会の元構想を描き、三村会長にオーケーを出してもらいスタートした。
- 25名で始まり100人委員会を目指して各界の論客に集まっていた。現在は113名。
- 官民の平たい議論というスタイルが出来上がり、今回まで延べ約4000名以上に聞いていただいた事になる。
- 寺島委員長、本当にありがとうございました。